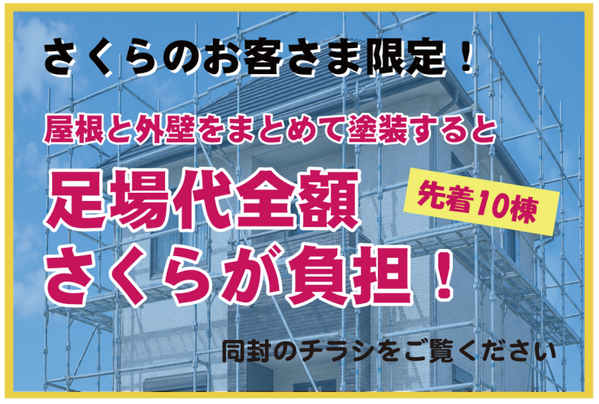






想いを繋ぐ実家リノベーション

実家リノベ相談会

完全予約制

場所：さくら茄子作店（さくリノ）
日時：期間中、定休日以外毎日開催

最適な「家の買い方」教えます。

中古リノベ相談会

完全予約制

場所：さくら茄子作店（さくリノ）
日時：期間中、定休日以外毎日開催

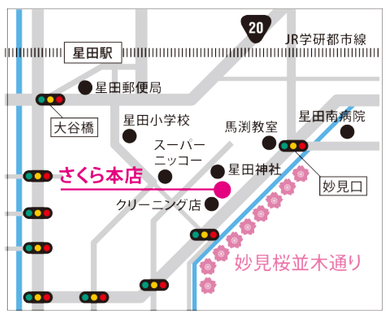
さくらの情報、ご連絡はこちらから

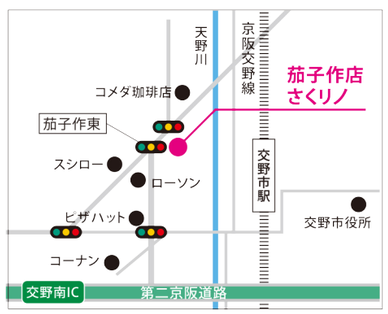
さくら ホームページ

さくら LINE

※営業時間外や定休日にはご返信することができません。

さくら INSTAGRAM







株式会社さくら

星田本店
〒576-0016 大阪府交野市星田
2丁目25-1　Tel. 072-891-4501

リノベーション&大型リフォーム専門店
さくリノ SAKU RENO

茄子作店 さくリノ
〒573-0082 大阪府枚方市茄子作東町
6-36　Tel. 0120-390-155

0120-390-155

SAKURA NEWS

さくら通信

SINCE 1974

秋号 2026 Vol.106



「猫と暮らせる家がない」その声がきっかけに

猫と飼い主さんが一緒に楽しく、安心して暮らせるように。そんな想いから生まれた賃貸マンションのリノベーションです。きっかけは、オーナー様が身近な方から聞いた「猫を飼っていると、なかなか借りられる家が見つからない」という声でした。実はオーナー様自身は犬派。それでも、猫と暮らしたい人の住まいの選択肢が少ないことに疑問を感じ、「それなら、自分でつくろう」と考えたそうです。これまでも所有する賃貸住宅を猫OKとしてきたオーナー様。今回は初めて、マンションでの「猫との住まいづくり」に挑戦しました。

オーナー様と一緒に、アイデアをカタチに

以前から、所有されている賃貸物件の修繕やメンテナンスをさくらにお任せいただいていたオーナー様。今回もマンションの購入を決める際に、さくらへご相談くださいました。猫との暮らしを思い描きながら、一緒にアイデアを出し合い、一つひとつカタチにしていきました。例えば、猫用ステップを取り付ける壁。当初の計画から、打ち合わせの中でマグネットが使えるタカラスタンダードの「エマウォール」を採用することに。猫の大きさや動きに合わせてステップの位置を変えられる、楽しく使い勝手のよい壁になりました。猫用トイレのスペースを設けたり、窓の内側に木製の柵扉を造作したりと、猫との暮らしを考えた工夫も随所に取り入れました。

「ここに住みたい！」猫も人も思える家に

もう一つ大切にしたのが、「猫のための家」だけにしないこと。猫が安全に楽しく過ごせるのはもちろん、暮らす人にとっても「ここに住みたい」と思える住まいを目指しました。室内はグレーを基調に、黒をアクセントにした落ち着いた雰囲気に。キッチンなどの設備は予算とのバランスを考えながら選び、収納や家電の使いやすさ、水まわりの動線にも配慮しました。さらに、猫が引っかきやすい壁はクロスを上下で貼り分け、傷んだ部分だけを張り替えやすくするなど、長く使うための工夫も。猫が楽しい。飼い主さんも心地いい。そして、オーナー様にもやさしい。そんな、みんなにうれしい住まいが完成しました。



透明ボールで下から肉球まで見えちゃう♪

透明部分や半ドームを取り入れた大工職人とさくらスタッフによる造作キャットウォーク。



猫ちゃんも自由に行ったり来たり！

室内の扉には、猫ちゃん専用の通り抜け口を設置。扉を閉めていても行き来できます。



窓辺にも、猫ちゃんの安全対策！

窓の内側には、飛び出しを防ぐ木製の柵扉を造作。安心して窓辺で過ごせるよう工夫しました。



猫トイレも、専用スペースにすっきり！

壁の一角にくぼみを設け、猫ちゃん専用のトイレスペースに。お部屋も広々使えます。



子どもたちに、どんな未来を残せるだろうか。

秋の気配が深まり、朝夕には涼しさを感じる季節となりました。今年も残すところ、あと2カ月。日頃より、さくらをご愛顧いただき、心より感謝申し上げます。

今年も半年以上が経ちましたが、この3カ月、地域の皆さまと共に、さまざまな挑戦を重ねてまいりました。その中で改めて感じたのは、「人と人とのつながり」や「信頼関係の大切さ」でした。

私たちは、次の世代に どんな地域を残せるだろうか。

先日、泉大津市の小津中学校を視察しました。驚いたのは、「生徒が自分たちで学校を創っている」ことです。校則や学校の方針を生徒自身が考え、始業式では先生に所信を伝える。さらには先生や親の在り方まで、生徒たちが主体となって議論しているそうです。

「公立の中学校で、ここまでできるのか！」

特に印象的だったのは、「自分たちで学校や社会を変えられる」と考える生徒が81％もいるという話。大人が答えを与えるのではなく、可能性を信じ、挑戦を見守る。これまでの常識を覆される衝撃と、日本の子どもたちの未来への勇気をもらいました。

さくらでも「さくら祭」を通じて、来年は学生たちとの連携を広げていきます。単なるお手伝いではなく、学生自身が企画し、挑戦し、**誰かに喜んでもらう。教える側と教わる側ではなく、共に地域の未来を創る仲間**になりたいと思います。

ありがたいことに、地域の方々からお声を掛けていただく機会も増えました。目指すのは、会社を大きくすることだけではなく、さくらと関わることで、人が元気になり、また子どもたちが未来に希望を持てる地域です。

子どもたちは、私たち大人の背中を見ています。

「あんな大人になりたい！」「あんな会社で働きたい！」そう思ってもらえる存在でありたい。来月からは地元中学校での職業講話も始めることになりました。また次号でご報告いたします。

今年のテーマは「共」。地域の皆さまと共に、「Like Family（**家族のようなつながり**）」を形にしてまいります。

目の前の人を大切にすることから、 地域の未来を創ることへ。

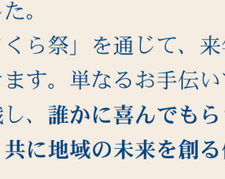
今後とも、さくらをどうぞよろしくお願いいたします。

代表取締役　吉村　健二

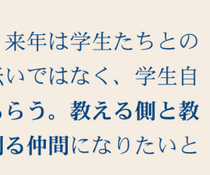
トレピック

熊本地震の被災地で見つけた、本当に大切なこと

大阪府からの要請を受け、さくらグループの福祉事業「さくらウェルケア」では、熊本被災地への災害支援に協力しました。さくらから4名が派遣登録し、先ずは迫田さんが1週間、熊本県宇城市の高齢者介護施設で支援活動に参加しました。



施設に届けられた支援物資



被害の大きかったエリアはブルーシートが目立ちました。

支える人も、被災者だった

地震から約1か月後、熊本を訪れた迫田さん。支援先の高齢者介護施設にも、震度7の揺れによる大きな爪痕が残っていました。

地震発生時、施設では棚が倒れ、停電で真っ暗になる中、職員さんたちが利用者さんを1階へ避難。車椅子の方は3人がかりで階段を降ろし、マットを敷いて寝起きする生活が数日続いたそうです。

迫田さんが特に心を痛めたのは、そんな利用者さんを支える職員さん自身も被災者だったことでした。自宅が被災し、家族のことも心配な中で、利用者さんを守り続けていたのです。

「施設では支援する側やけど、家に帰ったら自分も被災者なんです」

外部から人が入ることで、職員さんが休みを取り、自宅の片付けや家族のために時間を使える。人手を補うことだけが支援ではないと気づかされたそうです。

「一番困ったこと」、おむつ交換

施設長さんに、災害時に一番困ったことを尋ねると、返ってきたのは意外にも「おむつ交換」でした。

大勢で避難生活を送る中、利用者さんのプライバシーをどう守るのか。水や食料の備蓄だけでなく、排泄や着替えなど、災害の中でも続いていく「日常」への備えが欠かせないことを実感しました。

そして、マニュアルがあるだけでも十分ではありません。いざという時に、誰がどう動くのか。そのためには、福祉施設や行政、近隣の人たちが、普段から顔の見える関係をつくっておくことも大切です。

熊本での経験を、地域の安心へ

帰阪した翌日、迫田さんは地域の相談支援部会で、現地で見たことや感じた課題を報告しました。熊本での経験は、災害時に「誰が、何をするのか」を地域で具体的に考える取り組みへとつながっています。

「災害が起きてからではなく、起きる前からつながっておくことが大切」

被災地で見えてきたのは、特別なことだけではなく、普段の暮らしや人とのつながりこそが、いざという時の支えになるということでした。

熊本で得た経験をさくらグループでも共有し、地域の皆さまと支え合える、災害に強い街づくりへつなげていきます。

（㈱さくらウェルケア迫田体験談/取材後藤）

さくらの取組み

地域共生プロジェクト

地元の横つなぎ―連携を深めています！

大工さんと一緒に！ 世界にひとつの椅子づくり

「根っこわーくす」とさくらのコラボ企画で、子どもたちが椅子づくりに挑戦！「サッカーの時に休憩できるベンチが欲しい！」というアイデアをもとに、さくらの大工さんと一緒に木材の加工から組み立て、塗装仕上げまで取り組みました。子どもたちの自由な発想で、虹色ベンチに！完成した作品は5脚。11月14日から開催される「みつぼしART星田2026」で展示されます。





地域のみんなでつくり上げた夢の舞台！

9月23日開催の「星のまち音楽祭　交野市民ミュージカル2026」。地元の中山先生からのご依頼をきっかけに、さくらも舞台小道具づくりに協力しました。出演者やさくらの工房の利用者さんたちと、全長約5.4mの巨大な「磐船」を手づくり！本番では客席の背後に設置され、演者が登場する重要な舞台装置に。みんなで作った作品が物語を彩る、感動の一日となりました。





みんなの力で、学校のトイレが大変身！

「学校のトイレが古くて、オバケが出そうで怖い！」そんな子どもたちの声から始まった、市内の小学校のトイレ美化プロジェクト。5・6年生の美化清掃委員会と保護者の「サポーターズ」、さくらのスタッフと塗装職人さんが協力し、壁を塗装しました。子どもたちと地域の大人たちが力を合わせ、暗かったトイレが明るく楽しい空間に！みんなの想いが詰まった、世界にひとつのトイレが誕生しました。





Staff's Fav!

頑張るスタッフに、大きな拍手！

～2026年度中間発表会を開催しました～

9月28日、さくらの「2026年度中間発表会」を開催しました。建築・不動産・福祉・リユースなど各部門が上半期の活動を振り返り、今後の目標を共有。普段顔を合わせる機会の少ないスタッフも集まり、互いの仕事や頑張りを知る一日となりました。吉村社長は、各部門が自分たちの仕事だけでなく、他部門とのつながりや会社全体を意識していることを評価。「自分の仕事」から「さくら全体の仕事」へ。互いに力を合わせ、一つのチームとして成長する大切さを伝えました。



上期　優秀スタッフ賞受賞！

営業の土橋貴弥さんと、メンテナンスを担当する中原啓之さんが優秀スタッフ賞を受賞しました。土橋さんは、営業としてお客様と向き合い、高い成果を残す一方、新しいチームづくりや後輩の育成にも力を注いできたことが評価されました。「この賞は自分一人でもらったものではありません。チームのみんなのおかげです」と、受賞後も仲間への感謝を忘れません。

中原さんは、日々のメンテナンス業務に加え、忙しい時にも周囲のサポートや工事対応に奔走。困った時にはすぐ相談に乗り、設備について学び続ける、スタッフにとっても頼れる存在です。「これからも積極的に挑戦して、少しでもみんなの力になれるよう頑張ります」と話してくれました。

営業や工事、メンテナンス、そしてそれぞれを支えるスタッフ。普段は違う仕事をしていても、目指すところは同じです。一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合いながら、これからもスタッフみんなで、お客様の暮らしを末永く支えていけるさくらでありたいと思います。



アドバイザー：土橋　　工務 営繕：中原